

令和元年6月12日現在

機関番号：32686

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2018

課題番号：15K12846

研究課題名（和文）カルチュラル・アサイラム 中国インディペンデント・ドキュメンタリーの生成と流通

研究課題名（英文）Cultural Asylum-The Emergence and Circulation of Independent Chinese Documentary

研究代表者

鳥井 珠子（秋山珠子）（AKIYAMA, Tamako）

立教大学・立教大学アジア地域研究所・特定課題研究員

研究者番号：80422385

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、近年国際映画祭で注目される中国インディペンデント・ドキュメンタリーを対象に、「カルチュラル・アサイラム」という新たな概念を導入することにより、現代中国の非公的文化生産のダイナミズムを解明することである。そのため本研究は、作品の生成と流通の中国国内およびグローバルな動態に着目し、中国・台湾・日本・欧米での調査、資料収集、研究交流を推進した。とりわけ研究期間中に施行された「電影産業促進法」による当該分野の急速な収縮により、本研究は、中国インディペンデント・ドキュメンタリーの誕生から衰微までの包括的な歴史像を、実地調査と新たな概念によって解明する稀有な試みとして国内外で反響を呼んだ。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、中国インディペンデント・ドキュメンタリーに対する25年の参与観察の実績を持つ報告者が、その包括的な歴史分析を通し、現代中国の非公的文化生産のダイナミズムを解明を目指すものである。国内外の先行研究の射程はデジタル化以降に集中し、かつ、これを単独の領域として扱うものがほとんどであり、アナログ時代からの全過程を通して参与観察を行い、支配層および他領域との交錯した「共生」関係を視野に入れて論じる本研究は、他に類例を見ないユニークなものとして注目を集め、国内外の多数の招聘を受けた。また研究資源へのアクセスが急速に困難化する現在、報告者はその人的資源を生かした資料収集とその公開を積極的に行った。

研究成果の概要（英文）：The goal of this research was to explore the dynamism of contemporary unofficial culture in China. Focusing on the independent documentary which has recently been celebrated at international festivals, the project studied this community of artists through the new concept of "cultural asylum". To this end, the research project looked closely at the dynamic creation and circulation of films, both domestically and globally. Research was conducted in China, Taiwan, Japan, Europe and North America, collecting materials and talking to artists and researchers. Most notably, because of the "Film Industry Promotion Law" which went into effect during the study period and caused a swift shrinkage in related fields I was able to cover a comprehensive history of the documentary's birth and decline. The project was well-received both domestically and internationally as a novel attempt to approach this topic through a new conceptual apparatus along with extensive ethnographic research.

研究分野：芸術一般、地域研究（中国）

キーワード：中国 映画 ドキュメンタリー インディペンデント映画 非公的言説 現代美術 アサイラム カルチュラル・アサイラム

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

中国インディペンデント・ドキュメンタリーの起源は、1990年、呉文光（ウー・ウェンガン）監督が国営テレビ局の職を辞し、個人で制作した『流浪北京』に遡る。以来、低予算・ローテクノロジー・検閲を通さない個人制作の作品群は、制作においては基本的には国の統制を受けずに質的・量的な成長を遂げ、流通においては、国の配給システムの外部に独自の流通網を築いてきた。まず中国国内では、監督によるVHSコピー配布や海賊版の形で出回り始め、作品に対する芸術家や知識人の関心が高まるにつれ（呂新雨『当代中国新記録運動』2003）、カフェや大学で



呉文光『流浪北京』（1990）

上映会が行われ、ネット配信がなされ、次第に非公的映画祭や民間基金に発展するも、映画祭と基金アーカイブは政府による数次の干渉を経て2014年に閉鎖された。海外では、早くも1991年に山形国際ドキュメンタリー映画祭を始めとする国際映画祭のサーキットに登場し、とりわけデジタル化以降、王兵（ワン・ビン）『鉄西区』（2003）を始めとする作品群が高い評価を得ると、欧米の主な中国映画研究者が陸続とその研究に着手した（Berry, Chris, Xinyu Lü, and Lisa Rofel. *The New Chinese Documentary Film Movement*, 2010; Robinson, Luke. *Independent Chinese Documentary*, 2013）。一方で日本における学術研究は当時緒についたばかりであった（中山大樹『現代中国独立電影』2013、佐藤賢「記録と独立の系譜」（一橋大学博士論文）2013）。いずれにせよ先行研究の多くは、支配/被支配層の二項対立における「抵抗」「地下」「前衛」言説として対象を分析し、対立的に捉えられている支配/被支配層の重層性と変容の可能性は十分考慮されていなかった。

報告者はこれまで中国現代思想における非公的言説の研究を手がけ、ある時期・特定の領域で、多様な思考実験が政府の黙許あるいは推奨のもと展開され、しかし最終的には政府の干渉により衰微する現象を分析してきた（秋山珠子「1980年代中国『美学熱（ブーム）』の位相—李沢厚、劉曉波、劉小楓の論争を中心に」表象文化論学会, 2007年1月）。報告者が、1992年に呉文光と知遇を得、1993年以来山形国際ドキュメンタリー映画祭などの国際映画サーキットに通訳・字幕翻訳者として関わり、その草創期から現在まで内部から観察し続けてきた中国インディペンデント・ドキュメンタリーにも、類似の伸長のパターンを見出し得た。そこで、その生産と流通のトポスを、統治者の支配から相対的に独立した、文化生産の実験場と見、これを「カルチュラル・アサイラム」と捉えることにより、二項対立の枠組みからは見えない非公的文化生産の多様な相を検証し、支配層との複雑な交渉過程や重層的な関係を、アサイラム存続をめぐる戦略と機制として分析できると着想した。

2. 研究の目的

本研究は、研究開始時（2015年）に誕生25周年を迎えた中国インディペンデント・ドキュメンタリーを対象に、①草創期来（1992年～）の内部観察者という報告者の稀有な立場から、②劇映画・現代美術・舞台芸術・現代思想など報告者がこれまで手がけてきた他領域との知られざる相互関係を対照させ、③「カルチュラル・アサイラム」という新たな枠組みを導入することによって、現代中国の非公的文化生産のダイナミクスを解明することを目的とするものである。とりわけ、中国インディペンデント・ドキュメンタリーへの関心が、映画祭サーキットや学術界において世界的に高まる一方、2014年に入り政府による統制が強化され、中国国内の主要インディペンデント映画祭が中止され、民間基金のアーカイブが没収されるなど、研究資源へのアクセスが急速に困難化する中、報告者の人的資源の蓄積を生かした現地調査に基づく本研究への取り組みは喫緊のものである。

3. 研究の方法

研究目的を達するために、本研究は、中国・香港における現地調査と作品および文献収集、また比較対象とする他地域での現地調査を行い、報告者が1992年以来蓄積した知見の欠落を補い、アサイラムとしての中国インディペンデント・ドキュメンタリーの機制と実験の諸相を明らかにすることを目指す。現地調査においては、とくに次の項目に焦点を当てるものとする。①アサイラム構成員とその歴史的推移、②アサイラムをめぐる経済、③アサイラムにおける作品の特性と実験の諸相、④国内映画祭と国際映画祭、⑤他領域との交接、⑥アサイラムの内/外とその境界線。研究成果は学会報告や論文として公開し、未公開作品の上映会と国内外のゲストを招いたシンポジウムや研究会を開催し、研究資源を広く研究者、社会に提供することに努める。

4. 研究成果

（1）事例の調査・分析

中国インディペンデント・ドキュメンタリーのアサイラムとしての機制と実験の諸相を明らかにすべく、以下の調査を行った。

2015年度: 北京調査を行い、栗憲庭電影基金と同基金主催の北京独立映像展、呉文光の新拠点・秦家屯、CIFAにおいて関係者および現地在住監督のインタビュー、資料と作品収集を行い、アサイラム構成員とその歴史的推移、作品制作と映画祭運営について分析を進めた。国内では、東



京国際映画祭、東京 Filmex、恵比寿映像祭、文革 50 周年記念研究会等において来日関係者のインタビュー調査を行ったほか、山形国際ドキュメンタリー映画祭、中国インディペンデント映画祭、大阪アジア映画祭、グリーンイメージ国際環境映像祭においては調査に加え、質疑応答の進行・通訳を務め、関連主題討議の場の創出に努めた。さらに、日本在住の中国およびアメリカ人監督のインタビューを行い、本課題のグローバルな諸相を検討した。

2016 年度：中国インディペンデント・ドキュメンタリーのアサイラムとしての機能、とりわけその境界線の諸相の把握を主眼に置き、次の調査活動を行なった。海外においては、内蒙古青年電影週（フフホト）、香港

大學開催の中国インディペンデント・ドキュメンタリーの連続企画「情欲中国」（香港）、深圳芸穂影展（深圳）の『作家電影』パネル等に参加し、研究交流を行うとともに、監督や映画祭組織者へのインタビュー調査を進めた。国内においては、早稲田大学ジャーナリズム研究所研究会、関西クイア映画祭、あいちトリエンナーレ、大阪アジア映画祭、東京大学関連科講演会等において、研究課題に関する資料収集と討議を行なった。

2017 年度：2017 年 3 月から中国では電影産業促進法（映画法）の施行という、本研究開始時には予測し得なかった政策変更が行われ、これまでグレーゾーンにあった検閲未通過作品の制作・流通は一層厳しく規制されることとなった。本年度はとくに、この急変の実態把握に緊要性と重要性を認め、以下の調査・研究を行なった。中国では、宋荘及び栗憲庭電影基金（北京）、太原及び平遥映画祭（平遥）にて調査を行い、平遥での賈樟柯（ジャ・ジャンクー）監督インタビューを『Studio Voice』に掲載した。また欧州では、王兵特集が組まれたカッセル・ドクメンタ（カッセル）、艾未未（アイ・ウェイウェイ）スタジオ（ベルリン）、ベネチア・ビエンナーレ（ベネチア）にて関係者インタビューと資料収集を行ない、アサイラムの国外及び他領域への移行状況について調査分析を行った。日本国内では、複数の映画祭、演劇公演及び美術展において調査及びインタビューを行い、うち、作品「夜」が日本で舞台化されたクイア映画製作者である周豪監督との対談は、記録集が発行された。

2018 年度：前年度に引き続き、映画法施行後の実態把握を行うべく、中国美術学院（杭州）、上海国際映画祭（上海）、平遥国際電影展（平遥）で監督や映画祭関係者のインタビュー調査を行い、当該領域の収縮と他領域・他地域への移行の実態把握を進めた。また、UCLA、CalArts（ロサンゼルス）の研究者・実務家らと研究交流を進め、理論研究の進むアメリカにおける中国インディペンデント・ドキュメンタリー研究の最新動向及び移住監督の状況を調査した。

（2）成果公開

2015 年度：明治学院大学開催のシンポジウム「中国独立映画のプラットフォーム：俳優王宏偉（ワン・ホンウェイ）の多様な貌」を組織し、俳優兼栗憲庭電影基金アートディレクター・王宏偉氏を招き、中国インディペンデント映画の歴史と現状を議論し、あわせて本課題の発表を行った。また前述の映画祭等で来日した監督、映画祭組織者、研究者らを招いた連続研究会を開催したほか、早稲田大学現代中国インディペンデント映画研究部会、国際交流基金アジア映画研究会に参加し、本課題および比較対照地域に関する情報収集と広範な討議を行った。神奈川大学エクステンションセンターでは本課題の研究成果を講演の形で披露した。さらに、本課題と密接に関連する、中国インディペンデント・ドキュメンタリーの字幕翻訳についての発表を AAS（シアトル）、立教大学異文化コミュニケーション学部、同大学アジア地域研究所、日本映像翻訳アカデミーで行った。また、山形国際ドキュメンタリー映画祭出品作『青年★趙』を字幕翻訳し、立教大学でも公開上映会と討論を行った。

2016 年度：国際共同研究としては、台湾国際記録片影展（台北）の招聘で、呉文光監督、洪國鈞教授（デューク大学）と共にパネル「民間記憶計画與非虚構創作」に参加した。また、胡傑監督と江芬芬プロデューサーを招く国際研究集会を、早稲田大学現代中国インディペンデント映画研究部会、専修大学土屋研究室、青山学院大学陳研究室らと共催した。さらに、ミシガン大学（アナーバー）において海外在住の中国人インディペンデント監督、崔子恩、王我、応亮の 3 氏を招聘したシンポジウムと特集上映「Three Songs of "Exile": Independent Chinese Filmmakers Far From Home」を組織し、その成果を表象文化論学会『REPRE』(Vol. 29) に寄稿した。なお上映作品『Filmless Festival』は、王我監督の助言の下、東京大学の学生らと字幕翻訳を行なった。国内においては、龍谷大学で開催された日本現代中国学会関西部会大会の招聘を受け、本研究の成果を講演の形で披露し、それを発展させた論文を『大衆文化』（第 16



王我『Filmless Festival』（2015）

号)に発表した。さらに、座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバルの招請を受け、『青年★趙』の被写体である趙昶通氏との対談を企画・開催した。

2017年度：山形国際ドキュメンタリー映画祭において、王我・徐辛・蘇青・米娜・郭曉東・沙青の各監督を招いた大規模ディスカッションを組織し、また同映画祭の佐藤真監督特集では、中国から見た同監督について章夢奇監督・徐辛監督とともに招待講演・討議を行った。また、複数のドキュメンタリーの被写体となった作家・張先痴氏を招聘した国際研究集会と上映会を共催し、複数の歴史ナラティブについての報告を行った。さらに、立教大学においてアジア映画研究会との共催により、グラフィック・デザイナーとしても活躍する王我監督を招いたシンポジウムと上映会を行い、ドキュメンタリーと美術との関連について発表し、国内外の専門家を交えたディスカッションを行った。

2018年度：Documentary Film, Regional, Theoretical and Political Parameters (香港)、西湖国際記録片大会(杭州)、内モンゴ草原電影工作坊(フフホト)、表象文化論学会(山形)、日本映像学会・アジア映画研究会(東京)など国内外の学会・研究集会において、これまでの研究成果を発表し、異なる専門領域の研究者・実務家から有益なフィードバックを得た。とりわけ、各国の主要なドキュメンタリー研究者が参加した Documentary Film, Regional, Theoretical and Political Parameters では、中国映画研究の権威、Zhang Zhen 氏 (NYU) はじめ、複数の専門家から、報告者の「カルチュラル・アサイラム」という概念に高い関心が寄せられた。さらに、中国独立記録片研究会(香港)、AHRC(ロンドン)の中国ドキュメンタリー映画研究プロジェクトにおける顧問の招請を受けたほか、日本におけるドキュメンタリー制作を推進する東京 Docs において中国インディペンデント・ドキュメンタリーに関するトークセッションを行い、また、同 Pitching・セッションでの審査員を務めた。また、*Journal of Chinese Cinemas* の字幕特集号に単著論文を、『neoneo』ダイレクトシネマ特集号に単著論文と鼎談(秋山、土屋、中山)を寄稿した。

(3) 今後の展望

以上、研究期間全体を通し、中国インディペンデント・ドキュメンタリーというアサイラムの誕生から衰微までの包括的な歴史像を、前掲3-①～⑥の諸要素に注目し、相当程度、明確化することができた。また研究当初予期せぬこととして、2017年の映画法施行以降、中国インディペンデント・ドキュメンタリーのアサイラムは極端な収縮と沈滞局面を迎え、公開情報が極端に制限されたが、報告者の実施した国内外での調査により、中国インディペンデント・ドキュメンタリーのアサイラムにおいて、以下の複数の現象が複合的・重層的に進行しつつあることが確認された。すなわち、①作品制作の停止、②小スペース・地方都市での上映機会の探索、③検閲の受け入れと主流文化への参入、④他分野(現代美術、舞台芸術など)との融合・移行、⑤亡命または国外への拠点移動一である。これら諸事象は当該アサイラムの衰微、及び代替アサイラムへの遷移を示唆する重要な現象である。

この、本研究開始時には予測し得なかった、アサイラムの急変は、本研究に、「カルチュラル・アサイラム」という概念をさらなる調査研究により精緻化・理論化することに加え、極めて重要な課題をもたらすことになった。同法は、従来インディペンデント・ドキュメンタリーのアサイラムに許容されてきた、民間映画祭の開催・作品アーカイブの設置・大学内での上映・検閲未通過作品の国際映画祭出品などを全て法的に規制するものであるが、それに伴い、以下の一連の問いが浮上した。①同法施行によるアサイラムと作品制作への具体的影響は何か?、②当該アサイラム縮小後、代替アサイラムは形成されるのか? それは何か?、③伸縮と遷移を繰り返す複数のアサイラムの併存と交替は、イリベラル(illiberal)な社会における非公的文化生産のダイナミズムをいかに説明しうるのか?—1989年の天安門事件直後、文化・芸術活動の極端な停滞の時代の新興アサイラムとして生まれた中国インディペンデント・ドキュメンタリーのアサイラムは、現在、政策変更により、急速な収縮と他領域への遷移・離散へと向かいつつあるとも言えよう。今こそ、中国インディペンデント・ドキュメンタリーの誕生→拡大→離散までの包括的な歴史検証を通して、カルチュラル・アサイラムの周期性と遷移性を明らかにする格好の時であり、それは、同時代に生き、グローバルな文化生産に与る私たちにとっても無視できない切迫した課題であろう。この課題に取り組むべく、2019年度より新たな研究課題「カルチュラル・アサイラム—中国インディペンデント・ドキュメンタリーの位相空間」(基盤研究C)を展開し、中国インディペンデント・ドキュメンタリーというアサイラムの誕生から衰微までの包括的な歴史を、他分野・他領域との比較横断的考察の中で分析し、従来個別に論じられてきた複数の領域を統合的に捉え、中国のみならず、イリベラルな社会における非公的文化生産のあり方を横断的に考察することを目指していく。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計9件)

- ① Akiyama, Tamako, The Liberty Coerced by Limitation: On Subtitling *Feng Ming: A Chinese Memoir*, *Journal of Chinese Cinemas*, 査読有, Vol.13, 2019, 250-266
DOI: 10.1080/17508061.2018.1522814
- ② 秋山珠子, 複数形としての「亡命文化論」、中国60年代と世界、査読無、第2期第13号、2019、254

- ③ 秋山珠子、土屋昌明、中山大樹、中国インディペンデント・ダイレクト・シネマの過去・現在・未来、neoneo、査読無、招待論文、Vol.11、2018、107-115
- ④ 秋山珠子、導火線に点けられた火ー中国ドキュメンタリー監督とワイズマンの出会い、neoneo、査読無、招待論文、Vol.11、2018、120-123
- ⑤ 秋山珠子、過激な中庸に向かってー映画監督・賈樟柯（ジャ・ジャンクー）が見つめる人、都市、社会、歴史、STUDIO VOICE、査読無、招待論文、412号、2018、30-39
- ⑥ 秋山珠子、カルチュラル・アサイラムー中国インディペンデント・ドキュメンタリーの透明な砦、大衆文化、査読有、第16号、2017、37-51
- ⑦ 秋山珠子、報告と分析「Three Songs of "Exile": Independent Chinese Filmmakers Far From Home」、REPRE、査読無、Vol.29、2017
<https://www.repre.org/repre/vol29/topics/6/>
- ⑧ 周豪、秋山珠子、周豪インタビュー、『夜: CROSSING POINT』『夜 Ye』パンフレット、査読無、2017、4-9
- ⑨ 王宏偉、マーク・ノーネス、秋山珠子、中嶋聖雄、中山大樹、パネルディスカッション「中国独立映画の現状と課題」、言語文化、査読無、招待論文、第33号、2016、187-206

〔学会発表〕（計23件）

- ① 秋山珠子、再見真実ー中国インディペンデント・ドキュメンタリーにおける歴史という被写体、シンポジウム「ポストトゥルースの表象と政治」、表象文化論学会、招待講演、2018年11月10日、山形大学（山形）
- ② 趙昶通、秋山珠子、トークイベント『青年★趙』、Tokyo Docs 2018 上映会、招待講演、2018年11月4日、日比谷図書館文化館（東京）
- ③ 秋山珠子、当下紀錄片的表達策略与伝播、第2届西湖国際紀錄片大会、招待講演、2018年10月20日、中国美术学院南山校区（杭州・中国）
- ④ 高世名、王小魯、梁超、Mark Nornes、秋山珠子、Shelly Kraicer、金泳佑、學術論壇「世・界」、第2届西湖国際紀錄片大会、招待講演、2018年10月18日、中国美术学院南山校区（杭州・中国）
- ⑤ Akiyama, Tamako, Cultural Asylum: The Invisible Fortress of Chinese Independent Documentary, Documentary Film: Regional, Theoretical & Political Parameters, 招待講演、2018年6月25日、香港バプテテスト大学（香港）
- ⑥ 秋山珠子、時空を超えた飛び火：小川紳介と中国ドキュメンタリーのアサイラム、Creative Industries in Japan and Their Global and Transnational Linkages in ASEAN and East Asia、2018年5月26日、早稲田大学（東京）
- ⑦ 秋山珠子、傾聴弦外之音：中国独立電影翻譯筆記、内蒙古草原電影工作坊第1期、招待講演、2018年5月3日、内蒙古希拉穆仁草原狂达罕营地（内モンゴル・中国）
- ⑧ 秋山珠子、中国インディペンデント・ドキュメンタリー・現代美術・グラフィックアート、「中国インディペンデント・ドキュメンタリーの生成と流通」・アジア映画研究会公開研究会「Up & Down: ドキュメンタリー×中国×アート」、2017年10月13日、立教大学（東京）
- ⑨ 秋山珠子、王我、徐辛、蘇青、米娜、郭曉東、トークセッション：映画のない映画祭、山形国際ドキュメンタリー映画祭「アジア千波万波」、招待講演、2017年10月10日、フォーラム山形（山形）
- ⑩ 秋山珠子、張先痴をめぐる複数のナラティブ、専修大学視覚文化研究会「強制収容の記憶とテキストと視覚化」、招待講演、2017年9月30日、専修大学（東京）
- ⑪ 顧桃、秋山珠子、土屋昌明、中嶋聖雄、馬然、ディスカッション：中国インディペンデント・ドキュメンタリーの縁（エッジ）をめぐる、「中国インディペンデント・ドキュメンタリーの生成と流通」公開研究会「中国インディペンデント・ドキュメンタリーの縁（エッジ）」、2017年4月22日、立教大学（東京）
- ⑫ 秋山珠子、山崎裕、趙昶通、『青年★趙』トークセッション、座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル：特集「アジアの波」、招待講演、2017年2月11日、座・高円寺2（東京）
- ⑬ 秋山珠子、毛晨雨、馮宇、叢峰、林 Xin、邱炯炯、郭熙志、劉高明、李維、「電影作者」論壇、深圳芸穗影展、招待講演、2016年11月27日、火星現場 Mars 10（深圳、中国）
- ⑭ Akiyama, Tamako, Markus Nornes, Cui Zi'en, Wang Wo, Ying Liang, Johannes von Moltke, Panel discussion: Independent Chinese Filmmakers Far From Home, Three Songs of "Exile": Independent Chinese Filmmakers Far From Home, 招待講演、2016年10月28,29日、ミシガン大学（アナーバー、米国）
- ⑮ 秋山珠子、カルチュラル・アサイラム：中国インディペンデント・ドキュメンタリーの位相空間、日本現代中国学会関西西部会大会、招待講演、2016年6月4日、龍谷大学（京都）
- ⑯ 胡傑、江芬芬、秋山珠子、「死者が見つめる世界：胡傑監督と中国インディペンデント・ドキュメンタリー」、「中国インディペンデント・ドキュメンタリーの生成と流通」公開研究会、2016年5月29日、立教大学（東京）
- ⑰ 秋山珠子、呉文光、洪國鈞、民間記憶計劃與非虛構創作、台灣國際紀錄片影展、招待講演、2016年05月13日、華山拱廳（台北、台湾）

- ⑱ 秋山珠子、ノイズを翻訳する：『青年★趙』字幕翻訳ノート、不可解さと出会うために：中国ドキュメンタリー映画『青年★趙』とその字幕翻訳を通して、招待講演、2016年01月23日、立教大学（東京）
- ⑲ 秋山珠子、中国インディペンデント・ドキュメンタリー最前線、現代中国とその周辺を理解する、招待講演、2015年11月18日、神奈川大学 KU ポートスクエア（横浜）
- ⑳ 秋山珠子、リム・カーワイ、郭達俊、江瓊珠、賀照ティ、蔡崇隆、傅榆、林楷博、王佩芬、陳育青、蔡静茹、黄兆徽、李家燁、李惠仁、周世倫、『革命まで』（香港）、『太陽花占拠』（台湾）監督たちと大ディスカッション、山形国際ドキュメンタリー映画祭アジア千波万波特別企画、招待講演、2015年10月13日、フォーラム山形（山形）
- ㉑ 秋山珠子、馮艶、杜海濱、マーク・ノーネス、「侃侃諤諤★中国インディペンデント・ドキュメンタリー誕生 25 周年」、「中国インディペンデント・ドキュメンタリーの生成と流通」公開研究会、2015年10月12日、香味庵（山形）
- ㉒ 秋山珠子、カルチュラル・アサイラムとしての中国独立映画、中国独立映画のプラットフォーム：俳優王宏偉 ワン・ホンウェイ の多様な貌、招待講演、2015年06月20日、明治学院大学（東京）
- ㉓ 秋山珠子、不自由が強いる自由：中国インディペンデント・ドキュメンタリー映画の字幕翻訳を通して、字幕翻訳と異文化コミュニケーション、招待講演、2015年04月25日、立教大学（東京）

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕

その他記事

- ① 秋山珠子、カルチュラル・アサイラム—中国インディペンデント・ドキュメンタリーのトポス、研究紹介、立教大学ランゲージセンター、2017
http://lc.rikkyo.ac.jp/research/tamako_akiyama/index.html

字幕翻訳

- ② 沙青監督、秋山珠子翻訳『孤独な存在』（中国/2016年/106分）
- ③ 王我監督、秋山珠子監訳『映画のない映画祭』（中国/2015年/106分）
- ④ 杜海濱監督、秋山珠子翻訳『青年★趙』（中国・フランス・アメリカ/2015年/106分）

報道関連情報

- ⑤ 竹田恵子、第13回研究発表集会報告 シンポジウム「ポストトゥルースの表象と政治」、REPRE, Vol.35, 2019 <<https://www.repre.org/repre/vol35/meeting13/symposium/>>
- ⑥ 藤井省三、老外汉学家的车轱辘话 (13) 多重“自画像”的记忆——山形电影节所观中国电影纪录片、日本経済新聞中文版、2017年12月27日 <<https://cn.nikkei.com/columnviewpoint/column/28530-2017-12-27-04-51-20.html?start=1>>
- ⑦ 曾金燕、「情慾中國」映后：老安|夜鶯不是唯一的歌喉、2016年10月23日 <<https://freewechat.com/a/MzIyMzUwNzk2MQ==/2247483803/1>>

6. 研究組織

(1) 研究分担者

なし

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。